

存在と所有の意味概念はいかに 日本語の言語現象を説明するか — 一場主語の視点から —

東京外国語大学大学院博士後期課程
小柳 昇 (OYANAGI Noboru)
univ-oyanagi@nihon5ch.net

1. はじめに

1/5

➤ 存在と所有を表す動詞とその格配列

「いる」「ある」

※二項述語としての場所存在文と所有文

(1) a. 山田さんのいえに子供が**いる**コト

b. 山田さんに子供が**いる/ある**コト

(2) a. 山田さんの車庫には車**がある**コト

b. 山田さんに車**がある**コト

「もつ」

(3) 彼が大金**を**持っているコト

1.

2/5

➤ 存在の意味概念⇒ 〈存在〉 : アル

➤ 所有の意味概念⇒ 〈所有〉 : モツ

(4) a. この仕事に (は) 危険が [伴う]。

↓
危険が [常に一緒にアル]

b. この仕事は危険を [伴う]。

↓
危険を [常に一緒にモツ]

1.

3/5

➤ 〈存在〉と〈所有〉の言語形式とつながり

・ BEで〈所有〉を表す言語と HAVEで表す言語

(池上1981)

・ 世界の言語を見ると、HAVE言語は少数派

(バンヴェニスト1983[1966]) (Lyons1968)

・ 非対称性：HAVE-possessiveをもつ言語には

BE-possessiveがあるがその反対はない (Clark1978)

・ 歴史的発展 (山口2003)

HAVEをもたない言語 ⇒ HAVEをもつ言語

(活格型言語・能格型言語) (対格型言語)

1.

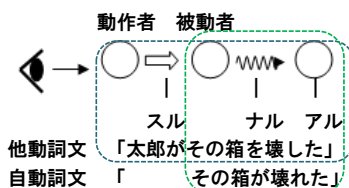
4/5

➤ 本発表の目的

・ 自動詞と他動詞の交替現象の一群を
自動詞の側から分析すること

➤ 従来の分析のアプローチ

〈他動詞側からの分析アプローチ〉 ⇨ 図1



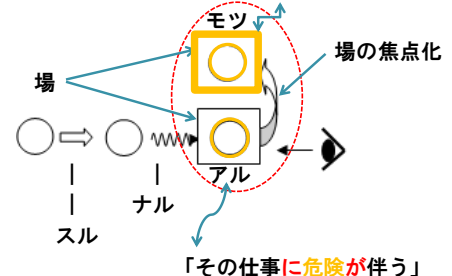
1.

5/5

➤ 本発表の分析のアプローチ

〈自動詞側からの分析アプローチ〉 ⇨ 図2

場主語構文：「その仕事は危険を伴う」



1. ~ 2. 先行研究 1/6

➤ 自動詞側からのアプローチで説明する交替

(6) 状態の事象を表す

- a. 自動詞 その仕事には危険が伴う。
- b. 他動詞 その仕事は危険を伴う。

➤ 関係動詞 (☞表1)

アスペクト対立がない動詞として注目

「AがBを有する」=「AがBを有している」

本発表 ヴォイスの対立として注目

「AにBがある」⇔「AがBを有する」

1. ~ 2. 2/6

➤ 自動詞側からのアプローチで説明する交替

- (6) a. 自動詞 その仕事には危険が伴う。
- b. 他動詞 その仕事は危険を伴う。

(7) 発生の事象を表す

- a. 自動詞 火山から火が噴いた。
- b. 他動詞 火山が火を噴いた。

(10) 非意図的・再帰的な変化事象を表す

- a. 自動詞 川の水かさが増す。
- b. 他動詞 川が水かさを増す。

1. ~ 2. 3/6

➤ 両用動詞 (☞表2)

森田 (1994)

・・・他動詞のほうが自動詞に歩み寄る

本発表

・・・なぜ同形態で自他交替する動詞が存在するのか、その存在理由は？

↓

自動詞のほうから他動詞に歩み寄る
〈存在〉と〈所有〉の言語化

1. ~ 2. 4/6

➤ 自動詞側からのアプローチで説明する交替

(9) 有対自動詞の両用動詞化

- a. 自動詞 太郎の席が(AからBに)かわった。
- b. 他動詞 太郎は席を(AからBに)かわった。
- cf. 他動詞 太郎は席を(AからBに)かえた。

➤ 先行研究 (☞2.3)

(目を)あく・(席を)かわる・(仕事を)終わる・
(計算を)間違ふ、などの動詞は自動詞?他動詞?

本発表 両用動詞の存在理由と共通点
〈存在〉と〈所有〉の言語化

1. ~ 2. 5/6

➤ 自動詞側からのアプローチで説明する交替

<使役変化の他動詞文の主語 ≠ 使役主>

(8) 主語=移動物の移動先の「場所」

- a. 自動詞 そのトラックには爆発物が載っている。
- cf. 他動詞 人がそのトラックに爆発物を載せた。
- b. 他動詞 そのトラックは爆発物を載せている。

(11) 主語=状態変化を被った人 (=~られる)

- a. 自動詞 台風で太郎の家の屋根が飛ばした。
- cf. 他動詞 台風が太郎の家の屋根を飛ばした。
- b. 他動詞 太郎は台風で家の屋根を飛ばした。

1. ~ 2. 6/6

➤ 例文(11): 状態変化主体の他動詞文 (☞2.4)

天野 (1987)

他動詞構文の一つの用法としての位置づけ
動作性が極めて低い段階 (=事態の所有)
という意味を表す。

⇒他動詞側からのアプローチ。

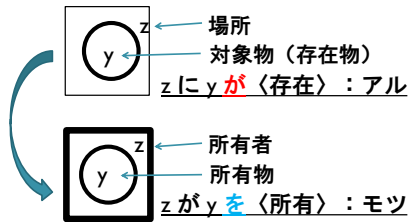
本発表

「所有」という意味概念の言語化は他動性の
低下という他動詞側からのアプローチ
だけでは十分には分析できない。

⇒自動詞側からのアプローチが不可欠。

3. 場主語構文の分析 1/11

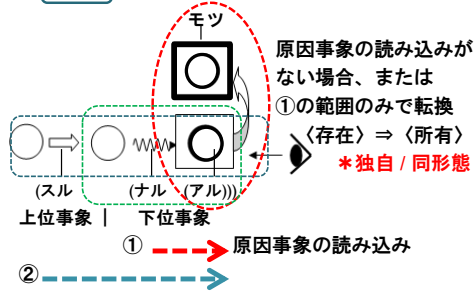
> 〈存在〉〈所有〉をベースにした分析モデル
場主語構文の定義 ⇨ (16) & 図3, 図4



3. 2/11

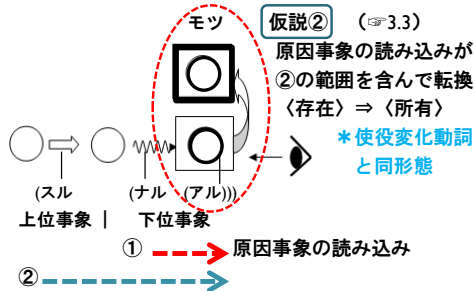
> 場主語構文の動詞の形態についての仮説

仮説① (⇨3.3) 両用動詞はなぜ存在するのか?



3. 3/11

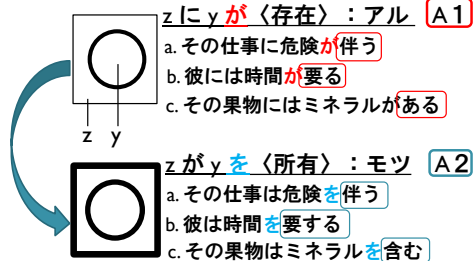
> 場主語構文の動詞の形態についての仮説
 使役変化動詞の主語≠使役主なのはなぜ?



3. 4/11

> 基本型:

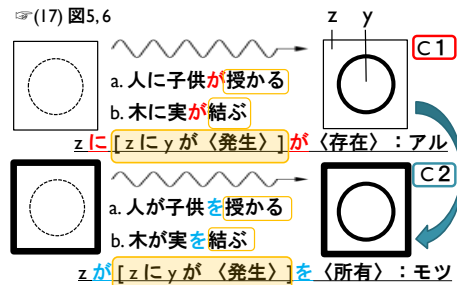
静的な所有原因事象の読み込みなし (⇨表3)



3. 5/11

> 拡張1: 動的な所有 [原因事象]=発生

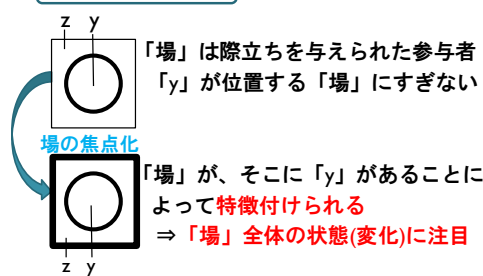
⇨(17) 図5.6



3. 6/11

> 〈存在〉〈所有〉をベースにした分析モデル

場の焦点化の意義 ⇨ (18)



3. 7/11

> 拡張1：動的な所有 [原因事象]=使役移動

(図7一部修正)

E1

(xによって) w の y が z に \langle 移動 \rangle が \langle 存在 \rangle : アル

a. そのトラックに爆発物が載っている
b. その教室にAV機器が備わっている

E2

a. そのトラックは爆発物を載せている
b. その教室はAV機器を備えている

z が \langle x が y を z に \langle 移動 \rangle \rangle を \langle 所有 \rangle : モツ

3. 8/11

> 拡張2 動的な所有 [原因事象]=変化の発生

⇨ 図8(一部修正)

w の y が \langle 変化 \rangle
 y は w の部分・側面・所有物

所有者の出来構造化
 $z=w$ において (=場所化)
 \langle y が \langle 変化 \rangle \rangle が \langle 発生 \rangle

$z=w$ が \langle \langle y が \langle 変化 \rangle \rangle が \langle 発生 \rangle \rangle を \langle 所有 \rangle

3. 9/11

拡張2：動的な所有 [原因事象]=変化の発生

F1 w の y が \langle 変化 \rangle

a. 人の手が地面につく
b. 人の目が閉じる
c. 川の水かさが増す

F2

a. 人が地面に手をつく
b. 人が目を閉じる
c. 川の水かさが増す

$z=w$ が \langle \langle y が \langle 変化 \rangle \rangle が \langle 発生 \rangle \rangle を \langle 所有 \rangle

3. 10/11

> 有対自動詞の両用動詞化における3つの動詞

使役変化他動詞 (主語=変化の発生をコントロール)

a. 太郎は席を変えた
b. 太郎は仕事を終えた

x が $x=w$ の y を \langle 変化 \rangle

変化自動詞 = **F1**

a. 太郎の席が変わった
b. 太郎の仕事が終わった

w の y が \langle 変化 \rangle

場主語構文の動詞 = **F2**

a. 太郎は席を変わった
b. 太郎は仕事を終わった

$z=w$ が \langle \langle y が \langle 変化 \rangle \rangle が \langle 発生 \rangle \rangle を \langle 所有 \rangle

3. 11/11

> 拡張3：動的な所有 [原因事象]=使役変化の発生

G1

(xによって) w の y が \langle 変化 \rangle

a. 台風で
太郎の家の屋根が飛んだ
b. 津波で太郎の車が流れた

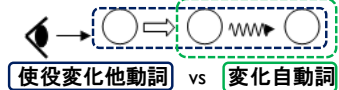
G2

a. 太郎は台風で
家の屋根を飛ばした
b. 太郎は津波で車を流した

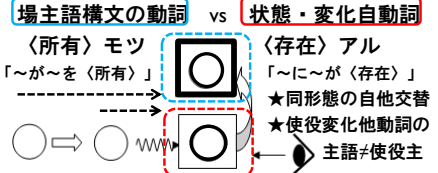
$z=w$ が \langle \langle x が y を \langle 変化 \rangle \rangle が \langle 発生 \rangle \rangle を \langle 所有 \rangle

4. まとめ

> 他動詞側からの自己交替の分析アプローチ



> 自動詞側からの自己交替の分析アプローチ



4. 課題

➤ 場主語構文に現れる動詞と態について

<動詞の形態>

z が [①発生・変化] を <所有> 自動詞と同じ

- ・ この仕事には危険が伴う : 自動詞
- ・ この仕事は危険を伴う : (静的) 所有動詞 ?

<動詞の形態>

z が [②移動・変化] を <所有> 使役変化動詞と同じ

- a. 花子は火事で家財道具を焼かれた : 受動態(迷惑受身)
 - b. 花子は美容院で髪を切ってもらった : 受益態
 - c. 花子は火事で家財道具を焼いた : 所有態? (中立)
 - d. 花子は美容院で髪を切った : 所有態? (中立)
- (cf. 佐藤1994 介在性の表現)

課題～補足

➤ 場の焦点化の意義 再考

小柳 (2010)

- a. その地から有名人が輩出した。 : 発生の自動詞文
- b. その地は有名人を輩出した。 : 所有の他動詞文

＝場主語構文：C2

⇒場主語構文には主題の「は」が現れることが多い。

- c. 【有名人】を多く輩出した【大学】・・・(多)
- d. 【有名人】が多く輩出した【大学】・・・(少)

⇒連体修飾の被修飾名詞になることが多いのは、

発生の自動詞文よりも場主語構文が多い。

早津 (1991) : 所有者主語の使役

- e. 男の子は目を輝かせた。 G2の拡張：場主語＝使役者
- f. 男の子は目を輝かせて話を聞いていた。

ご清聴 ありがとうございました。

➤ スライドで引用した文献 (予稿集のリストにない)

Clark, Eve V. (1978) "Locational: Existential, locative, and Possessive Constructions," in Miriam Butt & Wilhelm Geuder. *Universals of Human Language. 4: Syntax*, 85-126. Stanford University Press.

Lyons, J (1968) *Introduction To Theoretical Linguistics*. Cambridge University Press.

早津恵美子 (1991) 「所有者主語の使役について」
『日本語学会年報13』東京外国語大学：1-25